
SKYBLUE学園

白龍の海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SKYBLUE学園

【Nコード】

N3852X

【作者名】

白龍の海

【あらすじ】

ONE PIECE、青の被魔師の原作登場人物と、この小説の主人公、

「荒井 達也」と友人5名が、海青中高等学校での学園小説。駄目文ですが、良かったら、見てください。（おまけ）主人公は友人達と異世界に行って学園生活を送りますが、神から、仕事の依頼を受けて異世界に行ってます。（そして、もう一つ）この小説は、主に、ONE PIECEとオリジナル学園小説の組み合わせです。

1 主人公説明（前書き）

3 作品目です。

1 主人公説明

【名前】

荒井 達也
あらい たつや

【出身地】

日本東京都練馬区

【性格】

- ・ 思ったら直ぐに実行する派
- ・ 寝るのが好き
- ・ 体育系でもあり、頭脳系でもある。
- ・ たまに無鉄砲。

など。

【趣味】

- ・ 洋楽を聴く、歌う。
- （声を真似る事ができる）
- ・ サイクリング
- ・ 長距離走
- ・ 何かを作る
- ・ パソコンでいろいろなことをする。

「達也が何故ここにいるか」

それは、達也が夢を見てる時に起こった事だった。

老「おーい、おいおいおいおいおいおい。」

「誰？」

「つか、お前はウエザリアのじいさんか！？
な、訳無い。」

老「わしゃ、神様じゃ。」

はいはい、嘘はもっと上手に、ね。

老「嘘じゃない！

「今から、達也を、ちょっと違う世界に行かせようかと、
思ってな。ちなみに、三次元の乗り物は、思っただけで、出て
くる。」

「技術も達也の頭の中に入れてやる。
後、絶対記憶・能力アップしたからの。」

「はあ。」

老「では、行ってらっしゃい！」

1 主人公説明（後書き）

刀とかは、櫻井 海と同じです。
リュックも、持ってます。

次回「海青中高等学校」

2 クラスメンバー

この小説に出てくるメンバーのクラス表（後々更新）

〓 中学1年〓

A組 コビー・チョッパ―・サルデス

B組 キットン・ホーリー（犬）

C組 ハルタ・ヨーコ

D組 ソラン・オレナミ団

〓 中学2年〓

A組 ルフィ・バギー

B組 ボニー

C組 ベポ・コニス・（スー）

D組 ケイミー・（パッパグ）

〓 中学3年〓

特進クラス 荒井^{あらい}達也^{たつや}

特別クラス（生まれ場所が違う為）

渡辺 健志 わたなべ けんじ
伊藤 隆之 いとう たかし
青木 幸広 あおき ひろし
田中 陽平 たなか ようへい
武元 真一 たけもと しんいち

A組 シャチ・ペンギン

B組 ウソップ・カク

C組 たしぎ・パズール・吉国

D組 ナミユール（魚人、白ひげ海賊団8番隊長）

Ⅱ 高校1年Ⅱ

A組 奥村 燐・志摩 廉蔵・勝呂 竜士・三輪 子猫丸

B組 ランバ（白ひげ傘下）・ポルチェ

C組 奥村 雪男・杜山 しえみ・宝

D組 ゴロ・ハチ・神木 出雲・朴 朔子

Ⅱ 高校2年Ⅱ

A組 ロー・キッド・キラー・ルッチ

B組 ナミ・ビビ・（カルー）

C組 ヘルメツポ・キウイ・モズ

D組 マキノ・ホーキンス

〃 高校3年 〃

A組 エース・ホワイティベイ・シュラ

B組 マルコ・ヒナ・サットン・ガイル

C組 サッチ・サンジ・パウリー・カリファ・ハンコック

D組 ドフラミンゴ・アプー・アーサー

2 クラスメンバー（後書き）

次回「担当先生」

3 担当先生

学校長 ロジャー

副校長 ガープ

生活生徒指導 赤犬・青雉・黄猿

理事長 センゴク

副理事長 メフィ

スト・フェレス

Ⅱ 中学Ⅱ

国語 赤犬

数学 スパンドム・ミホーク

社会地理 モモンガ

歴史 オニグモ

公民 ボガード

理科 ジョズ

英語 くま

美術 ヤソップ

音楽 ブルック

技術 フランキー

家庭科 アルビダ（実を食べた後）

保健 ヒルルク

体育 黄猿

水泳 ジンベエ

Ⅱ 高校Ⅱ

化学 ベガパンク

英語 スパンドム

物理 戦桃丸

日本史 イゾウ

数学？ 青雉

数学？ クロコダイル

家庭科 つる

技術 フランキー

国語 赤犬

世界史 ロジャー

音楽 ブルック

体育 黄猿

保健 Dr・クレハ

水泳 ジンベエ

〓部活〓

陸上部 黄猿

水泳部 ジンベエ

野球部 ガープ

サッカー部 いない為、

サンジ担当

剣道部 モモンガ・オニグモ・（仮）ボガード・ミホーク

カンフー・空手部 ジャブラ

柔道部 赤犬

卓球部 ヤマカジ

男子バスケット部 スモーク

女子バスケット部 ベルメ

ール

女子バレー部 青雉

男子バレー部 ジョズ

吹奏楽部 ブルック

バンド系部 担当先生

無し

美術部 ヤソップ

家庭科部 ゼフ

英語部 ベン

将棋・囲碁部 イゾウ

茶道部 つる

研究・開発部 Dr.ベガ

パンク・フランキー

〓その他〓

スーパー店員 達也・青木・田中・伊藤・渡辺

武元・たしぎ・ビビ・ウソップ・モモンガ・ダル

メシアン・カク。

図書室長 バースロミュー・クマ

クラスの担任は本編にて。

3 担当先生（後書き）

次回「学校へ」

4 海青中学校へ転校

異世界へ行き、たどり着いた所には・・・、

健志「あ！達也くく！」

達也「健志？」

健志達が居た。

健志「そうだよ！ほら、隆之に幸広、陽平、真一もいるよ！」

達也「あー、ちょっと重要な話があるんだけど・・・。」

今までの経路を話した。

達也「で、神によると、ONE PIECEと青の祓魔師の原作主人公達がいる、

海青中学校 登校すんだって。」

5人「くくくくはああ！？」くくくく

陽平「じゃあ、異世界に来たって事か！？」

達也「うん。そんじゃあ、行くか。」

5人「くくくくそうだな。」くくくく

隆之「でも、どうやって?」

達也「トリップ特典さ。(6人乗りの車出て来い!)」

ボンッ

5「「「「「おおー!!」「」「」

そして、10分後。

キキィー!

ガチャ、バタン。

健志「もっと、安全に走れや!」

達也「良いじゃん!時間過ぎるやろ。」

陽平「いこうぜ、視線が・・・。」

達也&健志「あ・・・。」

幸広「早く。」

真一「行こうぜ。」

ここは2階にある職員室の前。

達也「俺？」

健志「当たり前だろ。」

コンコンッ

達也「失礼します。」

ガチャ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・。

6人「「「「「「Σ誰もいない!?」「」「」」

モモンガ「なんだ、転校生か？」

達也「うん?・・・まあ、そうですね。」

オニグモ「お前が、“荒井 達也”か？」

達也「あ、はい。」

ドーベルマン「荒井は『特進クラス』だ。クラスって言うてもお前しかないない。」

陽平「僕らは？」

モモンガ「『特別クラス』だ。朝礼がある。」

オニグモ「体育館に行くぞ。」

4 海青中学校へ転校（後書き）

短いです。

次回「朝礼と紹介」

5 朝礼と紹介

「体育館」

ガープ「今日は、臨時朝礼じゃ！ずっと立ってるのは、つらいじやろ？」

「だから、座っていいぞ？」

今、臨時朝礼が始まった。

副校長のガープが、そう言い、生徒達が座っていく。
体育座りだが。

ガープ「モモンガ！後は任せるぞ！」

モモンガ「はい。・・・今日は、転校生がこの学校に来たから、紹介をしようと思ってな。6人、こっちへ来い。」

ざわざわ

モモンガ「この、6人が、転校生だ。本当は、朝礼（集会）なんかしないのだが。」

「何故だか分かるか？」

??「はい。」

モモンガ「ん？勝呂君。」

勝呂「特別なんちゃう？」

モモンガ「正解だ。6人は、異世界から来た。正確に言えば、『異次元』」

勝呂「異次元・・・！？」

モモンガ「6人は、成績も良い。中3だが、高3の問題を普通に解いてる。

その6人の中で、ずば抜けてるのが、一番右の奴だ。名前は“荒井 達也”。クラスは、と言っても一人だが、『特進クラス』だ。

残りの5人は『特別クラス』だ。

名前は右から言つと、“渡辺 健志”、“伊藤 隆之”、“青木 幸広”、

“田中 陽平”、“武元 真一”。この6人だ。

話は以上。何か質問はあるか？」

ルフィ「おい！俺、モンキー・D・ルフィ。海賊王になる男だ！」

達也「ルフィ。海賊王は関係無いと思うが・・・。」

ルフィ「あ！そうだった！俺は、生徒会長になる男だ！」

陽平「無理でしょ。成績良くならないと。」

ルフィ「何！？そうなのか！？」

達也「はあ、お前、頭の中さ、食べ物しか考えてないんじゃないの？

特に肉。」

ルフィ「なんでわかったんだ!？」

健志「それ、秘密な!先生達にも教えられない事なんだよ!今はな。」

モモンガ「今は・・・?」

真一「1ヶ月後に言うから。」

隆之「まあ、そんな感じだな。」

モモンガ「それじゃ、朝礼は終わりだ。」

「体育館には教師と6人」
ロジャー「何故、教えられない?」

達也「ここの学校にちょっと関わることがあつてさ。それは、1ヶ月後に。」

ガープ「どうしてもか?」

健志「ああ。」

センゴク「しょうがない。戻るぞ。」

5 朝礼と紹介（後書き）

すみません、再び短いです。
次回「俺達って、何するの？」

6 日常活動決め（前書き）

久しぶりに更新。

3日も更新する予定。

6 日常活動決め

「空き部屋」

達也「ここ？てか、広っ！」

真一「あ、いいなー。」

達也「??」

健志「おれたちは、職員室の2倍あるけど・・・お前の方が広い！」

達也「え！？マジでー！！！」

隆之「軽く職員室の2.5倍あるよな・・・。」

陽平「スゲエ。こんなに広い空き部屋が学校に・・・。」

幸広「3倍じゃねえの？」

達也「いや、もうそんな事は置いて、これ決めようよ！って・・・。
」

健志「日常活動決め！？はあ！？おれたちって決まってるの！？」

真一「勝手に決めたらまずい。って、言ってた。」

隆之「それを早く言え！」スパーン

陽平「なあ、ずーっと思ってたけど、隆之ってツッコミ派？」

隆之「まあ、そうだけど。」

達也「早く決めるぞ！」

陽平「待つてよ。」

達也「うん？なにになに？」

まず、中学3人と高校3人に分かれて貰う。だってよ。」

隆之「うゝん。」

達也「いつものメンバーで良いと思うけど？」

隆之「そうだな！」

で、中学チームが、達也・健志・幸広。

高校チームが、隆之・真一・陽平。・・・と、なった。

達也「で、次に、何年担当になるか。だってー。」

幸広「じゃんけん話し合いで！」チツ。」

（10分後）

達也「決まった？」

隆之「おう！」

達也が中学3年、健志が1年、幸広が2年、
隆之が高校3年、真一が2年、陽平が1年。となった。

健志「つぎは？」

達也「えーとな。部活！お！バンド部あるぜ！先生とか居ないけど。
しかもNEW！」

隆之「なんでそこ英語！？」

達也「いいじゃねえかよ！で、Are you OK？」

5人「「「「「OK！！」「」「」」」」

達也「次！アンケート？あ！俺だけだ。」

隆之「はは、待ってるから。」

なにになに？

「アンケート用紙」

1 ・どこから来ましたか？

Q ・三次元の日本の東京都。

2 ・苦手教科は？

Q ・国語・歴史

3 ・得意教科は？（特に）

Q ・音楽・英語・数学・地理・公民・体育

4 ・どの部活に入ろうと思いましたか？

Q ・バンド部

5 ・理由は？

Q ・向こうでもやってたから。

回答ありがとうございます。お疲れ様です。

達也「終わった。なあ、店造ろうと思う。てか町。」

隆之「良いアイデアだ！それ！」

達也「じゃあ、勝手に造っちゃえ！」

隆之「イエーイ！」

達也達は日常活動決めして、町を造る事にしたのだった。

6 日常活動決め（後書き）

次回「計画」

7 町計画

「空き部屋（特進）」

今、5人が特別クラスの部屋に戻ってしまい一人になってます。

で、町計画だけど、重機とかほとんど俺担当。何故だ！？

とりあえず、できた計画は・・・、

〈第一段階〉

健志＆達也・草取り（道ができる予定の所）
幸広＆隆之・草取り（家を建てる予定の所）
真一＆陽平・土地確認

〈第二段階〉

達也・アスファルト道路造り
健志＆幸広＆隆之・家の構図
真一＆陽平・アンケート

〈第三段階〉

達也・材料集め
5人・町構図

今のところここまでしかできてない。

それでだが、真一と陽平がもう土地確認に行ってる。

俺は、学校の校庭に行き、草刈作業車を4台出してる。能力で。

もう一度言おう。学校の校庭で能力を使い、草刈作業車を4台出してる。

そう、視線が半端ない！！！！！！

まあ、しょうがないよな？向こうは見たこと無いからねー。
つて、健志と隆之と幸広と会話中。

あ、2人が帰ってきた。

真一「ものすごーーーーく、広がった。」

陽平「こりゃ、大変だぜ？大丈夫か？」

「大丈夫だよ。俺たちならできる！」

健志「何やってんだよ。達也。」

「エヘヘ。」

隆之「……………」(苦笑)

「なんで、苦笑いなの！？」

隆之「気にするな。」

「あ、出したよ。」

陽平「じゃあ、僕達はアンケート作りしてるよ。」

「ああ！後でな〜！！よし！行こう！」

健志「ああ・・・。（相変わらず元気すぎるだろ。）」

7 町計画（後書き）

短い！？あーどうしよう。定期テストが・・・・・・・・2週間後に・・・・・・・・。

次回「計画実行と政府にバレる。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3852x/>

SKYBLUE 学園

2011年11月14日22時21分発行